

木村メタル産業株式会社（卸売業・小売業）**〈知的障がい者の高い集中力を活かし、生産品の高付加価値化と障がい者の自立を実現〉****◆ダイバーシティ経営の背景**

障がい者が自立的生活を送るための雇用創出を目指し、障がい者の強みを活かせる事業として同社のマテリアルリサイクル事業に着目、一度に13名の障がい者を採用した。

- ・ 10年ほど前、地域の障がい者雇用を拡大するということをトップ自ら決断した。知的障がい者を見てきた経験から、“障がい者は細かな作業に集中して取り組むのに適している”との確信があったため、同社で実施していたOA機器等の破砕・解体事業に携わる作業員として障がい者を雇用することを思い至った。
- ・ 社長の信念は「障がい者が自立できる雇用環境の整備」であり、障がい者であっても正社員として8時間就労でき、給料を受け取る、「正社員雇用」にこだわっている。そこで、障がい者がその能力を発揮し、活躍できる事業を創出するべく、実績のないところからフルタイムの障がい者を十数名雇用することを決めた。
- ・ リクルーティングのために特別支援学校や授産施設等を多数往訪し「障がい者を自立させる」という理念やサポート体制を整備することなどを含め、丁寧に説明し理解を得ていった。結果として、障がい者13名、加えてジョブコーチ4名を正社員として採用し、同社の障がい者雇用がスタートした。

◆取組内容

障がい者4人に1人程度の割合でジョブコーチを採用、身近に寄り添って働く。ジョブコーチが適正の見極め、個別の目標を設定し、作業能力の向上を目指す。また、関係機関と密な連携を保つことで障がいを持つ社員が負担なく就労し、生産性を上げることに成功している。

- ・ パソコンや通信機器を障がい者が手解体を行い、選別することで、貴金属・ベースメタル等の回収率を高め、障がい者の特性を活かしながら素材の高品位化が図れた。
- ・ 身体障がい者は、破砕した資材を運搬する機材のオペレータを務めている。特に知的障がい者は一つのことに集中して作業する能力が非常に優れ、健常者に勝るスピードで熱心に作業に取り組んでおり、例えばパソコンの解体では、健常者より20%程度生産性が高いという結果も出ている。作業工程では、作業者と解体品が1対1の「屋台方式」と1対多の「自動解体ライン」の2つのパターンを取り入れ、各人のスキルに応じて作業分担を決めることで、高い生産性を維持している。また、手解体できめ細かな選別作業を行うことで、貴金属・ベースメタル等の高回収率を実現できるため、障がい者の特性を活かしながら素材の高付加価値化を図ることができた。
- ・ 福祉施設出身者や福祉大学卒業者を“ジョブコーチ”として採用し、障がい者と一緒に並んで作業の指導や安全管理等、手助けを行う。仕事以外にも生活面などについて相談に乗ることも多い。事業のスタートと同時に生まれた新たな職種であり、現役のジョブコーチ（新卒採用）は「これまで

にないチャレンジングな仕事で不安はあったが、障がい者の可能性を広げるやりがいのある仕事と感じたので就職、「障がい者から教えられることが多い」と熱心に仕事にあたっている。現在では52名の障がい者に対して15名のジョブコーチを配置し、障がい者本人だけでなく家族も交えてサポートを行っている。ジョブコーチを中心に、各従業員について「生活日誌」と「業務日誌」を記載し、作業内容・スキルのチェックを行う。なお評価に関しては、社員個人の技能習得状況や生活態度などを対象に、14の作業項目と16の着眼点から構成された評価体系を基に定期考課に繋げている。

- ・ 就労経験がある障がい者でも、8時間働くことがまず大きなハードルとなる。同社では実際に入社する前に2週間の実習期間を設け、ジョブコーチの支援のもと、最初は半日ぐらいから徐々に就労時間を延長し、長時間働くことに慣れてもらっている。実習期間中には、保護者に見学に来てもらい、勤務先や業務内容について保護者・家族の理解、納得を得ている。また、保護者だけでなく、学校や障害者就業・生活支援センターなどの関係機関と密な連携をとることで、障がい者が安定的に働くことができています。
- ・ また、ジョブコーチが適正を見極め、特性を活かした作業に配置をすることにより、解体能力の向上を図っている。
- ・ 作業にとまどう障がい者を見て、ジョブコーチだけではなく、先輩が指導し、お互い助け合う場面が見られる。徹底して安全のためのルールを守る、挨拶をされるといった障がい者の姿勢に、健常者が刺激を受けることも多い。社員同士が理解し助け合い、一体感のある職場となっている。



関工場での解体作業

◆成果

ジョブコーチの配置等、充実した支援体制のもと、障がい者が高い集中力を持ってフルタイムで働くことで安定的、継続的な就労と収益性確保を両立している。

- ・ 一つのことに集中して取り組める障がい者の特性を見出し、事業化したことによって、障がい者の継続的な就労と持続可能なビジネスとの両立を実現させた。特に、手解体できめ細かな選別作業を行い、一人ひとりの障がいの軽重や適性を見極めながら作業配置をしたことによって、個々の能力が発揮される仕組みを構築した。
- ・ 手選別ラインで、プラスチック等とベースメタルを丁寧かつ手早く選別する作業によって、有価性の高い商品を作り出すことに成功、収益性の向上に貢献している。
- ・ また、ジョブコーチの配置や事前研修といった細やかな支援体制に加え、家族と会社、関係機関との信頼関係を深める取組等により、障がい者が安定して長く働くことで、生活・経済も安定し、心身ともにゆとりのある自立支援につながっている。その結果、安心して就労し、やりがいを持って業務に取り組むことができるようになった。離職率は低く、業務に習熟した障がい者が活躍しながら高い収益性の維持に貢献している。

<企業概要>

設立年	1982年	資本金	30百万円
本社所在地	愛知県小牧市大字舟津字柏瀬 116-1		
事業概要	産業機器の解体処理及びリサイクル&リユース 非鉄金属類の回収、加工、販売		
売上高(※)	3,962百万円 (※)直近決算期(2012年5月)		

<従業員の状況(単体)>

総従業員数	181人(うち非正規40人)
属性ごとの人数等	【障がい者】52人
正規従業員の平均勤続年数	5.9年